（第２号様式）

令和６年３月 29 日

神奈川県教育委員会教育長　殿

県立新栄高等学校長

令和５年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 29 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月７日実施）	成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	・生徒の幅広い進路実現に対応したカリキュラム・マネジメントを実践する。 ・基礎学力の定着と発展的学習による学力の向上に合わせた学習指導を充実させる。 ・生徒の主体的・協働的な学習への取組を充実させ、学びに向かう力の向上を目指した授業を実践する。 ・学校行事や生徒会活動等の活性化と生徒の主体的な取組の充実を図る。	・学ぶことの意義を実感し、主体的・協働的な姿勢で取り組むことができる。 ・学習用端末活用による「個別最適な学び」と「協動的な学び」を充実させ、問題発見・解決能力や情報活用能力を高めることができる。 ・多文化教育をさらに推進し、異文化理解、国際理解を深めることができる。	①カリキュラム委員会を中心に、生徒の幅広い進路実現に向けた選択科目の設定を検討・検証していく。 ②授業研究委員会の実践方針に沿って、授業見学と研修会を実施し、学習用端末の効果的な利用を図る。 ③多文化教育支援チームを中心に、各教科や総合的な探究の時間で多文化教育を実施し、異文化理解を進める。	①生徒の進路希望に応じた適切なカリキュラム及び選択科目設定ができたか。 ②授業研究委員会で企画した授業見学・研修会を活用し、主体的・協働的な学びに向けた授業実践を共有できたか。また、学習端末を活用し、問題解決・情報活用の能力を高める授業を展開できたか。 ③各教科や総合的な探究の時間で多文化教育の授業を実践できたか。	①カリキュラム委員会で次年度３年生の選択科目設定を検討した。 ②授業見学、研究授業を実施した。 ③総合的な探究の時間等で多文化教育を実施した。 ③夏期講習では、韓国高校生と ZOOM 交流を実施し、異文化理解や語学学習に対する意欲の向上を、ボツワナ大使館訪問では、生徒の勤労観を涵養できた。 ③東京横浜ドイツ学園交流や地域イベントで在県生徒活躍する場を設けることができた。	①次年度に向け、課題検証する。 ②研究授業後に研修会を設ける等、どれだけ充実した取組にするかが課題である。 ③各教科等の取組で更に異文化理解を進める。 ③多文化教育推進については、外国籍生徒も多数在籍しており、組織的な取組となるよう教職員の意識改革と推進体制の改善が必要である。 ③引き続き、外国籍生徒の人権についても、職員研修等を実施し、意識啓発に努めたい。	③国際交流や地域交流が活発になり、生徒にとっても良い環境で学べるようになっている。定期的に PTA の会議で共有されることがあり、保護者も学校の取り組みが感じられるため PTA 保護者の中でも評判が良い。 ③総合学習や夏季特別講座、地域連携等を活用して特色ある教育活動を実施している。更に教育効果を高められるよう組織的に推進して欲しい。 ③学校目標として掲げる多文化教育を組織的に展開するための課題を明確にし、生徒参加数を見える化する等、その推移を改善指標とするのがよい。	①カリキュラム委員会で次年度３年生の選択科目を適切に設定できた。次年度に向けた検証が必要である。 ②授業見学、研究授業を実施した。学習端末を利用した授業もあり、その効果的な利用を共有した。 ③総合的な探究の時間等で多文化教育を実施した。また、夏期講習では、韓国高校生と ZOOM 交流を実施し、異文化理解や語学学習に対する意欲の向上を、ボツワナ大使館訪問では、生徒の勤労観を涵養できた。 職員向けに、外国籍生徒の人権について研修会を実施した。 ③東京横浜ドイツ学園交流や地域イベントで在県生徒が活躍する場を設けることができた。次年度に向け、組織的な取組が必要である。	①次年度の３年生でどのような問題点があるかを検証し、それを活かすことで、さらに生徒の幅広い進路実現に向けて取り組む。 ②研究授業後に研修会を設ける等、時間設定を工夫する。学習端末の効果的な利用について組織的に取り組む。 ③各教科等の取組で更に異文化理解を進める。 ③多文化教育推進については、外国籍生徒も多数在籍しており、組織的に取り組みたい。また、生徒の積極的な参加の機会を増やしていく。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	・部活動の活性化と生徒の主体的な取組の充実を図る。 ・生徒の自律心を育て、基本的生活習慣の確立と授業規範や生活規範の向上をめざす。 ・個々の生徒に応じた相談体制の充実と、安心して学び充実感の得られる学校づくりを進める。 ・相手を尊重する心を培い、コミュニケーション力向上を図る。	・基本的生活習慣を定着させるとともに、自己肯定感を高め、さまざまな行動を起こすことができる。 ・リーダーシップを発揮して、主体的に学校行事や部活動等に取り組むことができる。	①生徒が部活動に主体的に取組める支援体制を整備・充実させ、加入率 50%を目指す。 ②体育祭や文化祭、球技大会など、実行委員会を中心とした運営をさせる。部活動等に関しては顧問指導の下、意欲的に活動させる。 ③頭髪、服装、遅刻指導を中心に、授業規律等日常の生徒指導を、職員全体で行い、生徒が主体的に安心して学べる環境を整える。また、生徒個々の人権を意識した支援体制を実施する。	①部活動への加入率 50%を達成できたか。また、充実した主体的な活動となっているか。 ②実行委員会での計画を生徒主導で実施できたか。部活動等に関しては顧問指導の下、意欲的に活動できたか。 ③生徒が自主的にルールを守り、教員が適切な指導を行い、学ぶ環境の整備ができているか。また、生徒の人権を尊重した声掛けや、保護者との連携による支援体制ができているか。	①部活動への加入率は昨年度から 0.1 ポイント下がり、39.6%であった。１年生の男女比が 5：3 程の割合になり、１年生の入部率に期待したが 48.2%であった。 ②体育祭や文化祭では実行委員会を中心に安全かつ円滑に行うことができた。部活動に関しても大きな事故等なく活動できている。 ③頭髪、服装、遅刻指導を職員全体で行い、基本的生活習慣が定着した生徒が増えている。	①１年生の入部率は昨年度より３ポイントほど上がり 48.2％であったが、学年が進むにつれて入部率が下がるという統計がとれた。引き続き、新入生勧誘・部活動オリエンテーション、長めの仮入部期間を設ける。部活動の加入継続率を上げるために満足度を向上させたい。 ②特に文化祭アンケート結果から、生徒の関心の強さが窺えた。来校者制限や後夜祭の有無等は検討の余地がある。 ③継続指導を行い、課題がある生徒への指導・支援を粘り強く行う。	①部活動加入率を向上させるための具体的な改善策を明記・実行し、検証すべきである。 ①②部活動や学校行事の活性化が伺える。生徒が充実した活動を継続することで定着が図れると思われる。引き続き課題と改善の取り組みをお願いしたい。 ③今年の夏は長期間続いたため、衣替えの時期を柔軟に変更してはどうか？暑い季節の中、ブレザーを着用することに疑問のある保護者が多かった。	①新入生勧誘・部活動オリエンテーション、長めの仮入部期間の設定により新入生の入部率はやや上昇した。来年度は継続して新入生の加入率と継続率の向上について手立てを考えたい。 ②体育祭や文化祭、球技大会では実行委員会を中心に安全かつ円滑に行うことができた。今年度の文化祭では限定公開で行ったが、安心・安全を考えた運営と学校広報を考えた公開に向けての検討が課題である。 ③頭髪、服装、遅刻指導を定期的に実施し、ルールをしっかり守れる生徒が増え、主体的に学べる環境が整いつつある。引き続き基本的生活習慣の定着のための指導を行い、違反者ゼロを目指したい。	①部活動を継続させるための手立ては模索中だが、現時点でも顧問は十分に尽力している。生徒が年間を通して満足度の高い活動が目標である。 ②感染症防止と安心・安全の両観点で判断することが必須である。他のグループと連携を取り、協力を仰ぎながら、５月頃までには方向性を決めたいと思う。
3	進路指導・支援	・生徒一人ひとりのキャリア諸能力の段階的な育成を目指し、生徒の主体的な	・本校の学習環境も有効に活用し、キャリア諸能力を段階的に高め、自己実現	①全学年が外部の教育ツールを活用することができる体制を利用し、進路指導	①②外部の教育ツールの活用状況、各種テスト、模擬試験等の受検状況を検	①②作文模試等各種外部教育ツールを活用し、振り返りの時間を設け、生徒のスキルアッ	①②教育ツールの活用をさらに高めるために、より有用な情報を職員へ発信し、各職員か	①在県生徒の進路保障については、方策を具体的に考え、個々の進路実現に向けた支援をお願いしたい。	①②今年度は、大学進学の比重が高まった。指定校推薦による進学者が多かったが、一般受験においては、昨年度に続きＧＭＡＲＣＨの合格者がおり、さら	①進路に対する意識と知識を高めるために、外部の機関を利用し、より有用な情報を職員へ発信し、各職員から個々の生徒への発信ができるようにする。ま

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月７日実施）	総合評価（３月 29 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		進路選択と進路実現への支援の充実を図る。 ・グローバルな視野を培い、生徒が自らの適性を活かして将来を切り拓く力を育む。	に繋げることができる。 ・外部機関等も活用して、自らの適性や能力を理解し、主体的な進路活動ができる。	面での活用を高める。学力テストや作文模試を効果的に配置し、生徒のキャリア諸能力を高める。 ②校内模試等を実施し、生徒の主体的なスキルアップを援助する。 ③グローバルな進路を支援する体制を整える。 ④進路室を整備し、生徒が情報を得やすい環境を作る。	証し、生徒の主体的な活動を高めることができたか。 ③大学等との連携を高め、生徒への情報発信ができたか。 ④進路室の資料の展示場所や方法を工夫し、生徒が情報を得やすい環境になったか。	プが図れた。 ②校内で英検やニュース検定を実施し、生徒のスキル向上を支援した。 ③大学との連携の中で情報収集・集約を行った。 ④進路室の整備、２F 職員室前フロアーへの学習机、大学広報棚を設置し、より自由に利用・閲覧できる状態にした。自習スペースの整備で、１年生の利用も含め進路室での自習生徒が増えた。	ら個々の生徒への発信ができるようにする。 ②外部試験の校内実施を継続する。 ③個々の生徒の希望に沿える情報発信や提供をいかに整えるか、必要とする手続き等の知識やルールを進路 G としてまとめる必要がある。 ④整備面の目標は達成できた。より活用できるようソフト面の改善を行う必要がある。	③高大連携協定を締結している本大学へのオープンキャンパス参加生徒数は、昨年比倍増となった。更なる関係強化と教育活動活性化のために、大学が開催するイベント等への生徒・教員の参加を期待する。多文化教育推進については、依頼があれば連携事業を通してサポートしたい。	には国公立大学の合格者もいた。本校の進路は受験方法も含め多岐にわたり、個々のニーズに即した進路指導を行なうとともに、進路意識向上に向けて、作文模試等各種外部教育ツールの活用、校内での英検やニュース検定の実施により生徒のスキル向上を支援した。 ③大学との連携の中で情報収集・集約を行った。 ④進路室整備、職員室前フロアーへの学習机、大学広報棚を設置し、より自由に利用・閲覧できる状態にした。自習スペースの整備で、１年生の利用も含め進路室での自習生徒が増えた。	た、各進路行事企画時の「振り返り」を重視し、生徒一人一人の進路に対する意識を高める。 ②今後大学進学希望者が増加する傾向をふまえ、外部の教育ツールを利用し、学力の「見える化」を図り、個々の努力目標を明確化し、基礎学力の向上を図る。 ③在県生徒の進路指導は在県生徒の現状と在県生徒の特有の障害を把握し、他機関と連携を強化しながら、よりスムーズな進路指導が行われるようにする。
4	地域等との協働	・保護者や地域との協働を深め、地域に根ざした教育活動を充実し、信頼される学校づくりをめざす。 ・本校の教育活動の情報発信に努める。	・地域との協働を深め、活躍する場を増やし、社会参加意欲を高めるとともに、学校の魅力を発信することができる。	①地域団体等と連携を深め、生徒が主体的に活動する場面を増やしていく。 ②昨年度の検証のもと、中学生及びその保護者に、本校の魅力を伝える広報活動を行う。	①地域での貢献活動を充実させることができたか。 ②ＨＰや説明会等での情報発信を充実させ、本校の教育活動の魅力を発信できたか。	①地域貢献活動として、1 年生による学校周辺の清掃を行った。 ①地域主催の防災や多文化共生イベントに本校部活や在県生徒が参画し、日頃の活動の成果を披露した。 ②学校説明会では、司会を生徒が担当し、動画上映や部活発表等により、生徒の活動について情報発信ができた。 ②本校の教育活動について HP を定期的に更新し、最新情報を発信することができた。	①引き続き、クラス単位での地域清掃を実施する。 ①地域連携事業の重要性について職員が理解し、校内推進体制の整備を進める必要がある。 ②1 月上旬まで見学会を実施し、多くの中学生に本校の魅力を発信する。 ②今後、レイアウトの工夫や更新頻度も高めて行きたい。	① 地域と連携した多文化共生イベントは、みどり支援学校も参加し、部活動発表や在県生徒の活躍場面があり、素晴らしい取組である。 ② 学校説明会は生徒が司会や説明を担当し、動画等で生徒活動の様子を見ることもできて、学校の雰囲気がよく伝わってきた。今後もぜひ継続してもらいたい。 ②HP で最新情報を発信できている。活動後の生徒の声や生徒の変容についても知らせて欲しい。 ②受検者が昨年比増となった原因・理由、ニーズを分析し、受検者に合った学校づくりを推進して欲しい。	①１年生を中心とした校外清掃活動を複数回実施し、地域美化に貢献することができた。また、生徒も地域コミュニティーの一員であるという意識を醸成することに繋がった。 ①多文化教育に係る地域イベントへの生徒参加は、日頃の教育活動の良い効果検証の場であり、特に外国語教育に対するモチベーションの向上や生徒の達成感、自己肯定感を高める良い機会となった。 ②学校説明会等に生徒が積極的に参画し、教育活動の成果を発揮することで、中学生やその保護者等の方々に本校をアピールすることができた。 ②最新の教育活動の成果を HP で発信し、在県外国人を含めた多くの人々に理解してもらうことができた。	①今後も関係部署で、生徒が積極的に参画する、様々な形態（防災避難訓練、清掃活動等）での地域貢献活動を実施することにより、連携強化を図る。 ①多文化教育の推進については、今年度初めて、学校目標に掲げたものの、一部の担当者や生徒によって遂行されるに留まった。次年度は正式にグループ業務として位置付け、更なる推進を目指したい。 ②受検者増の要因を分析し、中学生やその保護者等のニーズも把握しながら、生徒参加型の学校説明会等を継続する。 ②HP 発信は一部更新が滞っている箇所もあるので、HP 担当部署で定期的に確認し、担当者に最新の情報を発信するよう依頼する。
5	学校管理 学校運営	・教職員の実践的指導力を高め、生徒の安全・安心を確保し、学校の安全対策を強化し、県民から信頼される学校づくりを進める。	・自然災害や、事故・事件、犯罪などに備えて、緊急時には適切に判断し、自らの安全を確保することができる。	①防災活動や危機管理のマニュアルの見直しを行い、職員・生徒への周知を徹底する ②防災訓練を効果的に計画し実施する。	①危機管理に向けた職員・生徒への啓発ができたか。 ②みどり支援分教室との連携がとれたか。	①マニュアルの見直しは行ったが、周知の徹底は十分とは言えない。 ②シェイクアウト訓練は実施したが、避難訓練が未実施である。	①学校行事や授業、職員研修などへの位置づけを検討して行きたい。 ②引き続きみどり支援学校との連絡・調整を進めて行きたい。	①「危機管理」については、「マニュアル周知を図るために●●する」と明記しないと学校の危機管理体制に生徒や保護者としては疑義が生じる。 ①防災避難訓練はマニュアルをベースに実施するのではなく、想定外の事態も勘案したものが有事の際は役立つ。 ②防災訓練でみどり支援学校分教室との連携を評価項目にしたことは、有り難い。また、救急の講習会等での職員連携は十分に達成したと考える。	①防災マニュアルは県の方針に従いつつ、本校の実情を加味して更新することができた。近隣の町内会や地域の防災活動との連携をさらに進めていけるよう検討を続ける。 ②避難訓練については、みどり支援学校分教室との連携を第一に考えていたが、実現させることができなかった。お互いの年間計画策定段階での調整は進んでいるが、学期始めや学期末の計画ではなかなか設定が困難であった。有効な実施方法について検討を続ける。	①防災マニュアルの周知について、全体の周知は困難であった。多くの職員が知っておくべき事項を絞り込んだ抜粋版の配付・掲示等、従来からの取組にさらに工夫を加え改良していく。 ②避難訓練については、引き続きみどり支援学校分教室との連携が重要である。総合的な探究の時間の活用など特別時間割によらない時間設定の可能性を追求する。